TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　678語

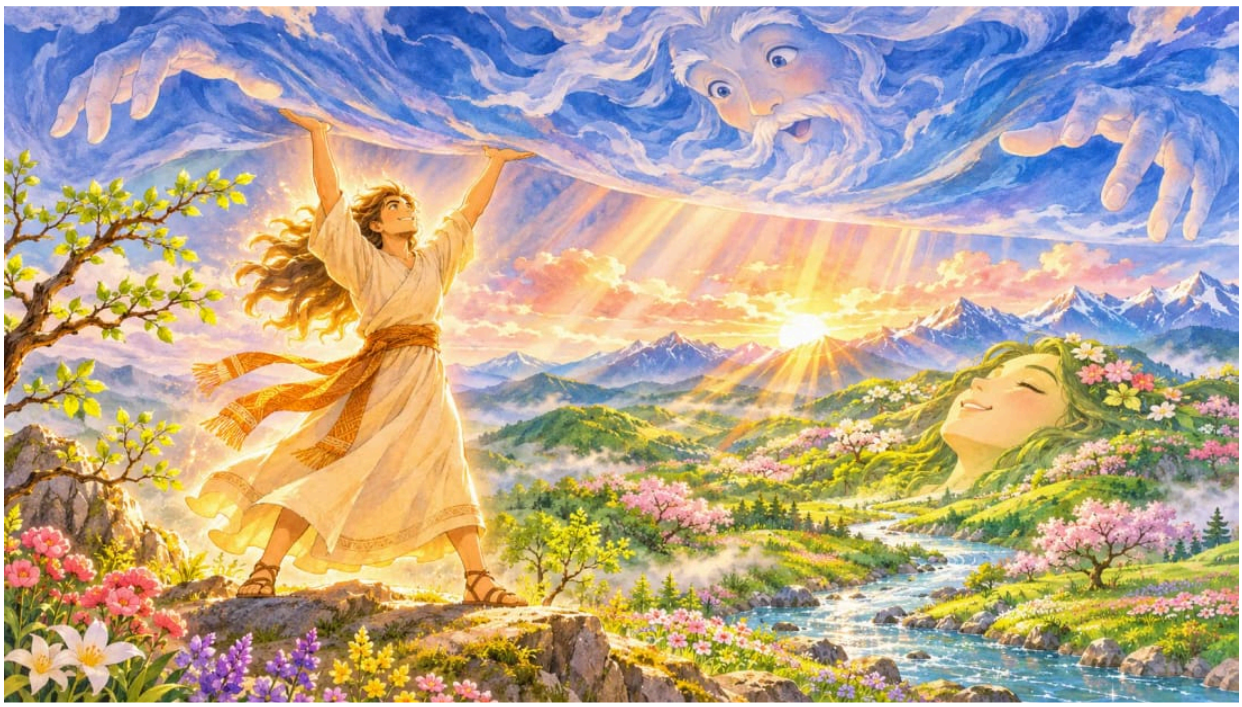
The Story of the Earth and the Sky

大地と空のおはなし

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：Annie Cheng

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　むかし、空は大地のすぐ上にあって、まっくらでした。空が高いところにあるゆめを見た「かがやく子」は……。



The sky used to be very close to the earth, and of course the earth had no sunshine. Trees did not grow, flowers did not blossom, and water was not clear and bright. The earth did not know that there was any other way of living, and so she did not complain.

By and by the sky and the earth had a son who was called the Shining One. When he was small, he had a dream, and he told it to the earth. "Mother Earth," he said, "I had a dream, and it was that the sky was far up above us. There was a bright light, and it made you more radiant than I ever saw you. What could the light have been?"

"I do not know, my Shining One," she answered, "for there is nothing but the earth and the sky."

After a long, long time, the Shining One was fully grown. Then he said to the sky, "Father Sky, will you not go higher up, that there may be light and warmth on the earth?"

"There is no 'higher up,'" declared the sky. "There is only just here."

Then the Shining One raised the sky till he rested on the mountain peaks.

"Oh! oh!" cried the sky. "They hurt. The peaks are sharp and rough. You are an unkind, cruel son."

"In my dreams you were still higher up," replied the Shining One, and he raised the sky still higher.

"Oh! oh!" complained the sky, "I can hardly see the peaks. I will stay on the rough rocks."

"You were far above the rocks in my dream," replied the Shining One.

Then when the sky was raised far above the earth and no longer touched even the peaks, a great change came over the earth. She, too, had thought the Shining One unkind, and she had said, "Shining One, it was only a dream. Why should you change the sky and the earth? Why not let them stay as they were before you had the dream?"

"O Mother Earth," he said, "I wish you could see the radiant change that has come to pass. The air is full of light and warmth and fragrance. You yourself are more beautiful than you were even in my dream. Listen and hear the song of the birds. See the flowers blossoming in every field, and even covering the rough peaks of the mountains. Should you be glad if I had let all things stay as they were? Was I unkind to make you so much more lovely than you were?"

Before the earth could answer, the sky began to complain. "You have spread over earth a new cloak of green, and of course she is beautiful with all her flowers and birds, but here am I, raised far above the mountain peaks. I have no cloak, nor have I flowers and birds. Shining One, give me a cloak."

"That will I do, and most gladly," replied the Shining One, and he spread a soft cloak of dark blue over the sky, and in it many a star sparkled and twinkled.

"That is very well in the night," said the heavens, "but it is not good in the daytime, it is too gloomy. Give me another cloak for the day." Then the Shining One spread a light blue cloak over the sky for the daytime, and at last the sky was as beautiful as the earth.

Now both sky and earth were contented. "I did not know that the earth was so radiant," said the sky. "I did not know that the sky was so beautiful," said the earth. "I will send a message to tell her how lovely she is," thought the sky, and he dropped down a gentle little rain.

"I, too, will send a message," thought the earth, "and the clouds shall carry it for me." That is why there is often a light cloud rising from the earth in the morning. It is carrying a good-morning message from the beautiful earth to the sky.

むかし、空は大地のすぐ近くにあって、もちろん大地には日の光がとどきませんでした。木は育たず、花はさかず、水もすんでかがやいてはいませんでした。大地は、ほかのくらし方があるなんて知らなかったので、もんくも言いませんでした。

やがて、空と大地に男の子が生まれ、「かがやく子」とよばれました。かがやく子は小さいころにゆめを見て、そのゆめを大地に話しました。「大地のお母さん」とかがやく子は言いました。「ゆめを見たんだ。空がわたしたちのずっと上にあるゆめだよ。明るい光があって、その光でお母さんは、今まで見たこともないほどかがやいていたんだ。あの光は何だったんだろう？」

「わからないわ、かがやく子よ」とお母さんは答えました。「大地と空のほかには、何もないのだもの。」

長い長い時がたって、かがやく子はすっかり大人になりました。そこで、かがやく子は空に言いました。「空のお父さん、もっと高く上がってくれませんか。そうすれば大地に光とぬくもりがとどくのです。」

「『もっと高く』などというものはない」と空は言いきりました。「あるのは、ここだけだ。」

そこで、かがやく子は空をもち上げて、山のてっぺんにのせました。

「いたた！ いたた！」と空はさけびました。「いたいぞ。山のてっぺんは、とがってごつごつしている。おまえは思いやりのない、ひどいむすこだ。」

「ゆめの中では、あなたはもっと高いところにいました」とかがやく子は答えて、空をもっと高くもち上げました。

「いたた！ いたた！」と空はもんくを言いました。「山のてっぺんがほとんど見えないじゃないか。ごつごつした岩の上でいいよ。」

「ゆめの中では、あなたは岩のずっと上にいました」とかがやく子は答えました。

そして、空が大地のはるか上までもち上げられて、山のてっぺんにもふれなくなると、大地に大きなへんかがおこりました。大地も、かがやく子は思いやりがないと思って、こう言っていたのです。「かがやく子よ、あれはただのゆめなのよ。どうして空と大地をかえなければならないの？ゆめを見る前のまま、そっとしておいたらいいじゃない。」

「ああ、大地のお母さん」とかがやく子は言いました。「この、きらきらしたすばらしいへんかを、お母さんにも見せてあげたい。空気は、光とぬくもりといいかおりでいっぱいです。お母さんは、ゆめの中よりももっと美しくなりました。耳をすまして、鳥の歌を聞いてごらんなさい。どの野原にも花がさいて、ごつごつした山のてっぺんまでおおっているのを見てごらんなさい。何もかもそのままにしておいたほうが、うれしかったですか？お母さんをこんなにずっと美しくしたのは、思いやりのないことでしたか？」

大地が答える前に、空がもんくを言いはじめました。「おまえは大地に新しい緑のマントをかけてやったから、花や鳥にかこまれて、そりゃあ大地は美しいさ。でも、わたしはどうだ。山のてっぺんよりずっと高くもち上げられてしまった。わたしにはマントもないし、花も鳥もない。かがやく子よ、わたしにもマントをおくれ。」

「はい、よろこんで」とかがやく子は答え、空にこい青色のやわらかいマントをかけました。そのマントの中では、たくさんの星がきらきらとまたたいていました。

「夜はこれでとてもいい」と空は言いました。「でも昼には合わない。くらすぎるよ。昼用のマントをもうひとつおくれ。」そこでかがやく子は、昼のために空色のうすい青のマントを空にかけました。こうしてとうとう、空も大地と同じくらい美しくなりました。

これで、空も大地もまんぞくしました。「大地があんなにかがやいているとは知らなかった」と空は言いました。「空があんなに美しいとは知らなかった」と大地は言いました。「大地に、なんて美しいんだろうと伝えるたよりを送ろう」と空は思って、やさしい小雨をふらせました。

「わたしもたよりを送りましょう」と大地は思いました。「雲に運んでもらいましょう。」だから朝には、よく大地からうすい雲が立ちのぼるのです。それは、美しい大地から空への「おはよう」のたよりを運んでいるのです。

たんご と クイズ 大地と空のおはなし

sky 空	**earth** 大地・地球	**dream** ゆめ
peaks 山のてっぺん	**cloak** マント	**star** 星
rain 雨	**cloud** 雲	

Q1 **かがやく子が見たゆめは？**

① 空がずっと上にあるゆめ　② 海の底のゆめ　③ 空をとぶゆめ

Q2 **夜の空にかけたマントは何色？**

① まっ白　② こい青色　③ 金色

Q3 **朝の雲は何を運んでいる？**

① 雨のたね　② お日さまの光　③ 大地から空への「おはよう」

こたえ

Q1 ① かがやく子は、空がわたしたちのずっと上にあって、明るい光で大地がかがやいているゆめを見ました。

Q2 ② かがやく子は、たくさんの星がきらきらまたたく、こい青色のやわらかいマントを夜の空にかけました。

Q3 ③ 朝に大地から立ちのぼるうすい雲は、大地から空への「おはよう」のたよりを運んでいるのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。

挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。

朗読（Web版）：Annie Cheng（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）

和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。